

水道向け次亜塩素酸ソーダの生産能力増強を決定

～関東圏の安心・安全な水道水の提供に貢献～

株式会社レゾナック（社長：高橋秀仁、以下、当社）は、川崎事業所（神奈川県川崎市）において水道向け次亜塩素酸ソーダ（以下、次亜）の生産能力を増強します。

当社ソーダ電解事業の主力製品である次亜は、上下水道をはじめとした水処理の殺菌・消毒等で主に使用されています。水道水は人々の生活基盤を支える重要なインフラであり、当社は必要不可欠な製品供給で支えています。

■レゾナックが次亜の需要拡大を支える

水道向け次亜のメインサプライヤーである当社は、長年にわたり関東圏全般へ安定的に供給することで、自治体の水道サービスをサポートしてきました。

かつて、水道の殺菌・消毒では液化塩素が使われていましたが、多くの自治体では次亜に切り替えが完了しています。また、水道法の規制強化に伴い、臭素酸や塩素酸の低減化が重要視され、より次亜の品質向上が求められるようになりました。

今回、関東圏の自治体で①液体塩素から次亜への切り替え②品質の観点から自製次亜から市販次亜の切り替えによる新たな使用が計画されています。この需要拡大に対応するために、当社は次亜の生産能力増強を決定しました。増強時期は2024年末を計画しており、生産能力は現行比30%以上引き上げの予定です。

次亜需要は今後も持続する見込みであり、当社はこの需要拡大を支えていきます。

■次亜の安定供給でサステナブルな社会に貢献

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）では、水に関する目標「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」が設定されています。日本では水道の蛇口をひねれば当たり前前に飲める水ですが、国土交通省*によれば世界で水道水をそのまま飲める国は日本を含めて9か国しかなく、そのまま飲めるが注意が必要な国は21か国しかありません。

今回の生産能力増強により、ライフラインを支える製品である次亜のさらなる安定供給体制を構築し、みなさまが安全な水をいつでも安心して利用できるサステナブルな社会へ貢献しつづけます。

* 出展：令和元年版 日本の水資源の現況 第7章「水資源に関する国際的な取組」

以上

【Resonac（レゾナック）グループについて】

レゾナックグループは、半導体・電子材料、モビリティ、イノベーション材料、ケミカル等を展開し、川中から川下まで幅広い素材・先端材料テクノロジーを持つ化学会社です。2023年1月に昭和電工グループと昭和電工マテリアルズグループ（旧日立化成グループ）が統合し、新たなスタートを切りました。新社名の「Resonac」は、英語の「RESONATE：共鳴する・響き渡る」と、Chemistryの「C」を組み合わせで生まれました。レゾナックは「共創型化学会社」として、共創を通じて持続的な成長と企業価値の向上を目指しています。2022年度の売上高は約1兆4千億円、うち海外売上高が56%を占め、世界22の国や地域にある製造・販売拠点でグローバルに事業を展開しています(2023年1月時点)。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

株式会社レゾナック・ホールディングス <https://www.resonac.com/jp/>

◆ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社レゾナック・ホールディングス
ブランド・コミュニケーション部 広報グループ
TEL 03-5470-3235